

ければならないと考えた。そこで、落ちついて学問をさせるには、戦争に勝つた長州藩の人に頼むのが、もつともよい方法だと考え、奥平謙輔に、会津藩の若者の教育を頼んだ。秋月を尊敬していた奥平は、秋月の気持ちを探して、快く引き受けるという返事をよこした。

このとき、将来を期待されて選ばれたのが、山川健次郎と小川亮の二人だった。小川は、当時、秀才少年で名がおつていた。健次郎は、戦後の混乱の中で将来への不安を抱きながらも、学問ができるうれしさに、心の中では胸をおどらせていた。そして、きつと会津のために役立つ人間になろうと、心に誓った。二人の少年は、河井善順というお坊さんに連れられて、会津をひそかにぬけ出し、奥平のいる新潟へ行くことになった。

このころ、会津は薩摩や長州の軍隊に占領されていたので、敗れた会津の武士が出歩くことは、禁止されていた。脱走とわかつてつかまれば殺されるかも